

名古屋市ごみ非常事態と 小金井市ごみ非常事態の 比較

2018年9月12日

行政研究部会 企画セッション

大正大学 人間環境学科

岡山朋子

名古屋市最終処分場建設計画 と市長選

- 1981年7月：港湾計画(運輸省所管)の中で、西1区(藤前干潟)105haを廃棄物処理用地等として位置づけ
- 1982年2月：愛岐処分場(多治見市)供用開始
- 1989年4月：**名古屋市長選挙**(西尾武喜現職②vs竹内平(弁護士)。藤前問題が争点に)
- 1993年4月：**名古屋市長選挙**(西尾武喜現職③vs竹内平vs辻淳夫(藤前干潟を守る会)引き続き争点に)
- 1993年7月：**名古屋市土地開発公社が事業用地として約118haを先行取得**
- 1994年1月：環境影響評価(アセスメント)の手続き開始
- 1997年4月：**名古屋市長選挙**(松原武久① 初当選)
- 1999年1月：名古屋市長が事業断念を表明
- 1999年2月：市長「ごみ非常事態宣言」を発表



小金井市ごみ処理計画と施設整備計画と市長選

- 1957年2月:二枚橋衛生組合(調布市・府中市・小金井市)発足
- 1984年 :焼却工場老朽化に伴う建て替え検討→小金井市民の反対
- 2003年4月:稲葉孝彦市長② 二枚橋焼却工場更新手続き佳境
- 2004年4月: **武蔵小金井駅南口再開発事業に関して市民の民意を問うために市長を辞職し出直し選挙**に自民党・公明党推薦で出馬して3選
- 2004年5月:小金井市、国分寺市へ可燃ごみ共同処理申し入れ
- 2004年11月:建て替え計画断念→他2市は二枚橋工場以外で処理開始→**宣言なし**
- 2006年11月:小金井市 ジャノメシン工場跡地と二枚橋焼却工場跡地の2ヶ所を建設用地として選定→**ごみ非常事態宣言**
- 2007年3月:二枚橋焼却工場操業停止→**ごみ処理を周辺自治体へ委託**
- 2008年6月:二枚橋、新ごみ処理施設建設場所として答申
- 2009年2月:二枚橋衛生組合解散確認→2010年3月解散(残務処理も終了)
- 2011年4月:稲葉市長落選、佐藤和雄市長当選:ごみ処理の費用が4年間で20億円に上っていることを「無駄遣い」と選挙中に主張→7ヶ月で辞任
- 2011年12月:稲葉市長 再選⑤
- 2015年7月:浅川清流環境組合(日野市・国分寺市・小金井市)設立

両市の比較①

	非常事態の前 (20年前～)	非常事態のきっかけ	行政対応	市民対応
名古屋市	新処分場開始とともに次期施設立地検討 取得した土地(港湾西1区)は結果的に生物多様性の観点で意義深い野鳥サンクチュアリに保全(されてしまった)	・予想外のごみ量増加(焼却能力不足に陥る) =資源分別計画の遅れ、減量せず ・計画していた最終処分場計画の白紙撤回→ラムサール条約登録湿地に ・市長アセス意見許諾してH11(1999年)宣言	・第2次ごみ処理計画策定、H20年までに20%、20万トン削減目標 ・新施設整備・ダイオキシン特措法に基づき灰溶融・ガス化溶融炉整備→高度処理化	・市長の「お願い」に反応 ・それまで3Rを推進してきた市民団体の取り組みを重用 ・事業者も市長願いに反応 ・ 「分別化貧乏」許容 ・保健委員による監視 ・ ごみに市民超寛容 に ・メディア・世論後押し(鳥保全のための奨励など)
小金井市	焼却工場開設後、組合内の他市は別組合を検討 小金井市は更新検討も新組合検討も先延ばし	・H18(2006年)焼却工場更新及び処理のめど立たず宣言(2年遅い?) ・真の非常事態は佐藤市長の当選(H23.4月)?	・市外処理維持 ・日野市・国分寺市との新可燃ごみ処理施設整備(2014年12月可決)	・ごみルールとしては了承 ・費用に対し認識なし ・ 非常事態の認識なし ・ 域外処理、単なる慣れに

両市の比較②

	非常事態の効果	その後のごみ処理	市民の反応・行政の決定
名古屋市	市民への周知徹底、普及啓発による分別推進= 強力なトリガー に	旧南陽工場閉鎖 灰溶融・ガス化溶融炉建設(高度処理化) 焼却灰埋立量は2年以内に半減、その後7分の1に(目標)	・愛技処分場浸出水問題(2001年)→問題にならず ・五条川工場等談合問題→報道されただけ ・鳴海工場(ガス化溶融炉)→ 住民反対なし ・「資源化貧乏」(ごみ分別と資源化に多額の税金が必要となった問題)→ 許容
小金井市	? とにかくごみ処理工場建て替えに反対、自区内処理への反対強化?	可燃ごみの域外委託 →慣れ親しんだ挙句に、その費用を「無駄遣い」(佐藤市長) →しかしその後も一組相手を探し続けやっと思つた!(日野・国分寺) 粗大ごみ破碎工場などの更新必要→市外へ委託	・市内で焼却処理をしない状況に慣れた ・分別項目が多いことにも慣れている ・そのための費用がかかっていることには無関心 ・粗大ごみ処理破碎工場施設を、二枚橋工場跡地に検討→ 住民反対 → 可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ処理を域内で実施しないことを決定

市長イニシアチブとメディア

	市長のリーダーシップ	メディア・世論	市民社会
名古屋 市	松原市長当選→ごみは専門外 非常事態前→弱かった 非常事態を宣言(計画断念) ごみ処理に人員(市役所)投入 重点政策課題とし市民にPR	・市長の計画断念について好意的 ・ごみ減量呼びかける	市長及び 行政に協力 新分別項目に混乱はあったが慣れた後の問題少ない 現在はごみ意識風化
小 金 井 市	ごみ問題と駅前再開発問題は 政争に 稲葉市長→ごみ問題よりも駅前 再開発を優先→ごみ対応遅滞 非常事態を宣言(工場停止) 市外にごみ処理を委託 ごみ分別を増やす 5期目～資源処理に税金投入	際立つ報道 ・小金井市の失政 ・小金井市民の反対運動 →他都市の反発 ・市政と市民の対立 ・小金井市と他都市の対立	「ごみ処理(依頼)費」を無駄遣いと主張した佐藤市長を当選させた 反対派は他都市からの反発に鈍感? 多くの市民は、なぜ分別項目が多いのか不理解、税金投入に無関心 許容よりも慣れ 協力意識薄い

考察

★「非常事態宣言」の使い方

- ・名古屋市はある意味本当に「非常事態」:緊急にごみを減らす必要があった
- ・小金井市の「非常事態」は市長と行政が招いたもの:宣言直後はごみ減量にそれほど真剣でなかった?(委託先を探すことに真剣)

→市民のごみ意識の涵養と分別行動を得るために「宣言」。しかし安易に宣言することには問題があるのでは(狼少年化)

★今後のごみ処理を考えると…

- ・政令市(例えば名古屋市)は自区内処理に加えて周辺小都市のごみ処理を引き受けることに?
- ・多くの小規模都市は単独自区内処理は困難になるため広域化(委託・広域連合・一部事業組合)

→小金井市のごみ処理方針は時代の先取り??